

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和12年度学校評価 計画

学校名	有田町立曲川小学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	それぞれの項目において、学校全体で取り組んできた結果、児童の姿の変容や保護者の理解と支援、地域の方の協力をいただいていることを実感している。児童を育てていくには、学校内での意識と目標の共有・実践、学校と家庭・地域との密な連携が重要であることを改めて考えさせられている。次年度は、これまでの取り組みをより厚く、活発にするためにも、成果の上がった項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。学力の向上については、校内研究で望ましい集団づくりを核とした学習環境の向上をめざし、学習状況調査を中心にPDCAサイクルを確立した取り組みをすすめたいと考える。
2 学校教育目標	心身ともに健全て、自ら考え行動し、豊かな人間性をもつ子どもの育成

3 本年度の重点目標	①命を大切に、健全な心や体づくりの推進 ～たくましい心や体を育てる～ ②自ら学ぶ喜びを味わい、主体的・対話的な学習の推進 ～授業で育てる～ ③豊かな心を育む特別活動の推進 ～認め合い・支え合う心を育てる～
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	B	・5月11日に学力向上研修会を行った。12月結果の共有をし、その上で、共通実践・成果指標・12月県調査の到達目標を提示し、先生方にマイプランを考えてもらった。書いていただいたマイプランを職員室に掲示し取り組みの促進を図りたい。	A	・それぞれの先生方に考えていただいたマイプランを職員室に掲示した。先生方に聞き取りをした結果、全ての先生が設定した指標に達成したという回答だった。	A	・算数は、学習指導の問題ですので、改善が期待できる。 ・国語については、悪くないのは頼もしい。	学力向上コーディネーター		
	○若手教員と共に授業力向上に取り組み、1時間1時間を大切にしたり分かりやすい授業実践	○各教科の基礎的・基本的な課題に対し、児童の正答率85パーセント以上	B	・各学年「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習の効果的な与え方の工夫を行う。 ・「友だちアンケート」やQ-Uテスト等を生かして実態把握をし、授業実践する。 ・「自主学習の取り組みについて検討」「自主学習のすすめ」を作成し、学力向上便りとして家庭にも周知し、最外で見える取り組みを6月より3年生以上で始めた。1・2年生についても2学期以降取り組みたい。	B	・「有田っスタイル」について共通理解・検討をし、家庭用と児童用のパンフレットを新たに作成した。家庭用は全家庭に配布し掲示していただくようお願いした。児童用は全校のマップにはさませるようにした。 ・自主学習の取り組みについて検討し、「自主学習のすすめ」を作成し、学力向上便りとして家庭にも周知し、最外で見える取り組みを6月より3年生以上で始めた。1・2年生についても2学期以降取り組みたい。	B	・作成した「有田っスタイル」は、引き継ぎ前のマップにはさませるようにして、他の学習に必要なものをはさませるようにしている。 ・「Good自学」のコーナーを作り、良い自学を掲示すると共に他の児童の参考になるようにしている。 ・学習状況調査の期には、教育相談と並行して過去問に取り組みせたり、学力向上アップタイムとして放課後に個別指導をしたりした。	B	・インプットよりアウトプット(表現)の学力を重視することが大切ではないかと思う。学ぼうとする意欲をどう高めるかを、ぜひ大切にしたい。	指導法改善 学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○校内研究(特別活動)や日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意した学級集団づくりに取り組み、後期のQ-Uテストで支援群5%以下にする。	B	・各学級、道徳の参観授業を1回以上実施する。 ・特別活動の理論実践研究を全職員が深め、「友だちアンケート」やQ-Uテスト等を生かして実態把握をし、授業実践する。 ・校内研究や日々の授業の中で人権・同和教育の視点に留意して取り組む。	A	・夏期研修でQ-Uテストについての講話を聞き、演習を行い各学級の実態把握に努めた。その結果を受け、2学期からの各学級の取り組みについて話し合った。 ・お互いのよさや違いを認め合う活動を全校で取り組んでいる。	A	・コロナウイルス感染防止のため、授業参観は行わなかった。代わりに、各学級での取り組みをふりかえり道徳日よりして配布した。 ・お互いのよさや違いを認め合う活動を多く取り入れることにより、進んで協力していくとする意識や態度を育てた。 ・全体授業研究は、G-Uテストの結果を踏まえ児童の	A	・心の教育は、結果を見るのではなく、人とのコミュニケーションや体験活動等から育つものという視点を感じます。不登校がないということがすばらしい。	研究主任 人権・同和教育担当者 道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止や早期発見のための取り組みや事案対応において、組織的対応ができていて回答した教員80%以上	B	・日々の観察とともに、「心のアンケート」やQ-Uテストを行って児童の実態を把握する。その結果をもとに、個別に面談を行い、いじめ等の早期発見に努める。また、学級の状況やいじめについての研修を行い、児童の把握やいじめのメカニズム等について理解を深める。 ・SCやSSW来校日には、児童が相談しやすいように場の設定や保護者への情報提供を行う。	A	・身の回りの差別に気づき、思いやりのある言葉かけのできるように取り組んでいる。 ・「部落差別の歴史」「隠れ語を用いた不適切な発言の対応」の研修会をし、職員の間で共通理解を図り、差別をなす共通指導に取り組んでいる。 ・SC、担任、保護者と報告、連絡、相談を行いながら教育相談等を行い児童の共通理解をしている。	A	・職員に対し「部落差別問題学習」の模擬授業を行い、また、6年生の授業実践を1時間以上参観し、研修を深めた。 ・SCとの面談を通して管理職、担任、教育相談担当で児童の情報交換を行うことができた。また、2か月に1回の心のアンケートの配付を行うことにより、児童の心の状態を把握し、すばやい対応に繋がった。	A	・いじめについては、オープンな態度で臨んでおられることがよいと思う。 ・先生と児童のふれあい、ふだんの会話の時間を確保することによって、児童の背景にあるものが見えてくるように思う。	生徒指導主任 人権・同和教育主任 教育相談担当
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	B	・安全に子どもたちが登校できるように、子ども見守り隊の方々に支援を依頼し、安全安心な環境づくりへの感謝の気持ちを子どもたちが持つようまねづくりを行う。 ・PTA役員と職員が歩いて通学路の点検を行い、校区安全マップを見直す。 ・各学年に応じた交通指導をするとともに、顔を上げて歩く、ルールを守って運転することの大切さを学校全体で指導する。	A	・見守り隊の方々との協力して、児童の安全な登下校のため指導を徹底している。 ・児童の意識はまだ低い。さらに指導が必要である。また、自転車の乗り方については心配な面がある。来年度は学校で自転車教室を計画する。 ・交通安全が新型コロナウイルス感染予防のため全体を集めてできなかった。低学年の歩行指導も来年度は計画をする。	A	・見守り隊の方々のご協力もあり、年間を通して交通事故がなかった。自転車の乗り方等でも、学校に連絡が来ることはなかった。下校時も交通ルールを守るようとする意識が育っている。 ・集団登校での見守りに深く感謝している。今後、交通ルールをしっかりと守って登下校できる曲川小学校児童であってほしい。	A	・交通事故ゼロ、学校内の大きな事故もゼロということはずばらしい。 ・休みに多くの児童が運動場で遊んでいる様子を見て、たくましく元気な姿にパワーをいただいた。 ・健やかな生活ぶりを見せていただけた。	生徒指導主任 教頭
	○自分の夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高めるための教育活動	○自分のなりたいものや将来の夢を語る事ができる児童を90%以上	C	・キャリア教育を積極的に授業に取り入れ、地域のゲストティーチャーを招くなどして児童の視野を広げ、向上心を高める。 ・全教科や学校行事を通して、夢や目標について自分自身を見つめ考える時間や場面を設定する。	B	・6年生においては、西有田中学校体験入学(リモート)において、中学校への質問事項を考え、実際に質問をし中学2年生から回答ももらった。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、今年度はゲストティーチャーを招いての授業がなかなか実施できていない。 ・「自分自身を認めて、より良い方向へ表現できる児童の育成」という研究テーマのもと、自分自身を見つめ考える時間や場面の設定を行うようにした。	B	・校内研究の研究内容と絡めて、自分自身を認める活動をそれぞれの学年の発達段階に合わせて行った。 ・6年生は思春期教室や租税教室では、地域外からゲストティーチャーを招いて人生の先輩から話を聞き、自分の将来について考える機会となった。 ・2月22日に横谷法橋先生を招いて、6年生に「自分の夢や希望に向かって努力するための大切さ」について話してもらった。	B	・続き物づくりでは、本校児童の感性はすばらしいと思います。今後も感性を伸ばせる取り組みであり続けるように町の事業を継続してほしい。 ・体験活動は、コロナ禍では難しいと思うが、工夫されてがんばっていた。 ・コロナ禍で地元や各地区との交流も少なかったのではないかと感じます。横谷先生をはじめ、地元の講師をさらに活用していただきたい。	B
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在等時間の上限を遵守する。	B	・文書処理、校納金処理、教職員補助(教材・教具購入等)を行う。 ・ICT支援員を積極的に活用し、動画教材の作成や、能率的なデータ管理・保管を行う。 ・デジタル教材の共有化、管理の徹底を行う。	A	・校納金処理については、事務職員に補助をしていただく期が近づいている。 ・定時退勤日には、ずいぶん早く退勤する職員が増えた。また、各職員が退勤時間を見逃して効率的な働き方をしている。しかし、45時間という時間外勤務上限を超える職員がいるので、更なる業務改善と意識改革が必要である。	A	・事務職員の校納金処理、ICT支援員の授業等への積極的活用により担任業務がかなり改善された。 ・定時退勤日(金)は、ほとんどの職員が早く退勤するようになった。また、退勤時刻を意識して働く意識が高くなり、そのために1カ月先を見通して	B	・クロムブックの活用で、大きく変化すると思われる。	管理職 事務主任
	○会議の時間短縮と、内容の精選	○会議資料はなるべく電子化し、職員会議等の時間は1時間以内	B	・部会での検討を十分に行い、会議での検討内容を精選しておく。 ・職員フォルダに資料を事前に入れ、協議の時間を確保する。	A	・全ての内容を職員会議で検討するのではなく、事前に関係職員と協議しておくことで会議時間の短縮と提案内容の精選を図ることができた。 ・職員会議資料をPDFにし、印刷・配布の業務を削減した。	A	・研修の検討を行い、朝の時間を30分確保して授業準備の回復を行っていた頃から、朝の時間を短くして授業後の時間を確保できる校時に変えた。 ・成績処理のスケジュールを事前にお示しし、進捗にも配慮して呼びかけること、最終的な処理をお断した。また、データによる入力が入力ミス・入力エラーによりエラーを発生したりサーバーの故障を伴ったり	B	・コロナで難しいのが大切にしてほしい。	食育担当 栄養教諭 保健主事

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●特別支援教育の充実	○特別な支援や配慮を要する人に対する意識と教員の専門性の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	B	・夏季休業中に講師を招聘しての特別支援教育の研修を全職員対象で行う。 ・気になる子の共通理解の場を週1回の職員連絡会で行う。また、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員を中心とした支援会議を随時行い、児童の状況や対応の方策を話し合う。 ・必要に応じて特別支援学校と連携し、巡回相談を実施する。	B	・毎週の職員連絡会で気になる児童についての情報交換を行っている。 ・個別の支援が必要な児童、医療機関との連携が必要な児童について支援会議を実施したり主治医との相談を行った。	B	・職員連絡会で報告の華がかった児童で、学び方の特性や他者とのかわり方について、学級担任が特に気になる児童については個別の発達検査を行い、学習上や生活上の学校及び家庭でできる支援について、担任とともに検討し保護者に伝えることができた。 ・医療機関との連携が必要な児童について引き続き相談を続けている。	B	・トイレの多くが和式という問題については、家庭のトイレが洋式なため慣れないだけでなく、身体の不自由な方への配慮(UD化)のためにも改善が必要と思う。	特別支援コーディネーター 教育相談担当

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 それぞれの項目において、中間評価を受け学校全体で本校の学校教育目標を改めて意識して取り組んできた。その結果、目指す児童像「たくましい心・自ら学ぶ子・心豊かな子」を職員・児童・保護者が共通理解して具体的に指導支援したことで、児童は不登校や問題行動もほとんどなく学校を楽しんでいる。また、地域の方の協力で数年間無事故で通っている。児童を育てていくには、学校内での意識と目標の共有・実践、学校と家庭・地域との密な連携が重要であることを改めて実感した。また、今年度は校内研究と連携して児童支援教員を中心に人権・同和教育(部落史学習)に力を入れた。更に、志を高める教育の1つとして地域人材を講師に人権学習や音楽体験学習に取り組んだ。次年度は、成果の上がった項目をより高めつつ、課題をしっかりと把握し、改善に努めていきたいと考える。学力向上については、望ましい集団づくりを核とした学習環境を整え、新学習指導要領で示された学習評価の3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をもとに自ら学ぶ児童の育成に力を尽くしていきたい。
----------------	---